

私のカルテ

No 4 2 3

津島市民病院
麻酔科主任医長

和田幸也

全身麻酔前の禁煙のススメ

『全身麻酔で手術を予定します、手術前は必ず禁煙してくださいね』

このセリフは、日本国内の多くの病院で言われています。100%の病院といっても過言ではありません。では、なぜ全身麻酔前にはタバコを止めるように勧められるのでしょうか？

最初に、全身麻酔とは

麻酔ではいくつかの薬を使って、患者さんは眠りにつきます。体が動くと危ないため、体の動きをおさえる薬も使いますが、この薬が呼吸を行う筋肉の動きも止めてしまいます。すると、自分で呼吸ができない状態になるため、挿管チューブを口から入れて、人工呼吸器によるサポートを受けることが必須になります。

タバコが全身麻酔時にどんな影響を及ぼすか

タバコの煙に含まれる様々な成分が、気道(息の通り道)や肺の機能を弱めます。そのため、咳や痰が異常に増えたり、のどや気道が腫れたりします。喘息や肺炎などの病気を起こしやすくなります。喫煙者では挿管チューブが気道に入っている刺激に対して、過敏に反応しやすくなり、呼吸器系の合併症を増やすこととなります。

タバコの影響は呼吸に関することだけではなくありません。手術後の創の治りが遅くなったり、創が感染したり、心臓や血管に関する合併症が起きやすくなります。

周術期禁煙ガイドラインによると

日本麻酔科学会という日本の麻酔の総本山では、様々なガイドラインを出しています。その中には周術期(手術を受ける前から受けた後までの期間)の禁煙についてのガイドラインもあります。そこに書いてあることを簡便に書き記します。

- ① タバコを吸っていると、手術に伴う数々の合併症が増え、手術後の回復も遅れる
- ② 手術前にタバコを止めることには意義がある
- ③ 手術前の禁煙期間が長いほど、合併症をより減らすことができる

- ④ 手術前の禁煙をきっかけに、それからの禁煙を目標にできる

多くの医師が参考にするガイドラインにも、タバコを止めることを勧める内容が書いてあります。

世の中には麻酔とタバコに関係する研究もたくさん行われていて、その中から1つを紹介します。

実際に手術前に禁煙できれば、どうなるか

喫煙している患者さんが全身麻酔による手術を受けることが決まっても、現実には全員がタバコを止められるわけではありません。タバコを止めることができると、もちろん手術においては良いことがあります。

手術前にタバコを止めなかった人は、手術による合併症が起こる可能性が、タバコを止めた人の約4倍にも及ぶとの研究があります。ただ、この合併症を減らす効果は、タバコを止めることに強い意義があり、タバコの本数を減らしただけでは効果が乏しくなってしまいます。

まとめ

タバコを吸っている人が全身麻酔で手術を行うと、手術後に起こりうる合併症の可能性が高まります。タバコを手術前に止めることには大きな意味があり、手術後の順調な退院を促してくれます。手術前に禁煙することができれば、手術が終わって退院してからも禁煙が続き、生涯禁煙を目指すこともできます。

